



# 愛腎協 かわらばん

患者の、患者による、患者のための愛腎協

第227号 編集：(一社)愛知県腎臓病協議会事務局 発行：令和6年8月10日

愛腎協、名古屋市腎友会、愛知県透析医会、愛知県、名古屋市の関係者が一堂に集まり「**第1回災害対策合同会議**」が開催されました。

(患者団体、医師会、行政が災害情報・対策を共有するために意見交換をしました)

7月18日(木)10時～正午まで、愛知県白壁庁舎5階会議室で愛知県医務課から後藤桐敬担当課長様、名古屋市健康福祉局から森本隆史担当課長様をはじめとする8人の行政担当者、愛知県透析医会から会長の稲熊大城医師、同災害対策委員長の伊藤 功医師、同名古屋担当の春日弘毅医師、そして愛腎協並びに名古屋市腎友会役員らが一堂に会しての「**第1回災害対策合同会議**」が開催されました。

第1回目として先ず、いつ来るか判らないものの、歴史的に絶対来るとされている東南海大地震(震度7規模)が起きた際に、愛知県下で透析治療を受けている約1万7,800人の患者に対する公助体制として現状どうサポートされるのか?に対して愛知県透析医会、愛知県、名古屋市の想定情報を開示していただき、私たち患者会との共有を図りました。

それによると地震・津波・火災等により愛知県下で発生すると予想される透析難民の数は約7000人であろうと報告され、私たちの想像を超える規模に驚かされました。これに対し、医療者側、行政側は共に緊密な連携を取って被災者の救出計画を練っておられるようですが、やはり「**患者と家族、地域の自助・共助の考え方**」はとても重要であると強く感じ、再認識しました。

被害想定が大きいとされる名古屋市だけでなく、愛知県下の各地域での透析病院、患者会、市町村関係者との平素からの情報共有が必要で、愛腎協として「**会員への効果的な啓発**」にどう取り組むか?という課題も明らかとなりました。

愛腎協と名古屋市腎友会共催の「災害対策合同会議」は、今後も毎年継続して開催することになりました。



▲第1回災害対策合同会議の様子

## 青年部主催の「第3回青年部カフェ」が尾張本部と共催で開かれました。

7月21日(日)14:00～16:30に「第3回青年部カフェ」が開かれました。青年部カフェとはまだ透析歴の浅い患者さんが抱えている透析についての疑問や悩みを、青年部といっしょに話し合って解消のヒントをつかんでもらおうとする座談会です。第2回までは名古屋市内で開かれましたが、



いろいろな地域の方に参加してもらうべく、各本部と共催して地域を回ることになりました。

その第1弾がこの尾張本部との共催であり、場所も江南市の布袋ふれあい会館第3会議室にて開かれました。

当日の参加者は透析歴3ヶ月の方が1名に対し、迎える側は青年部と尾張本部のメンバーに加え、安田会長も各本部や青年部女性部を回って疎通を図りに来ていたので、大人数で1人の参加者の疑問について大いに盛り上げて話し合いました。

青年部では今回尾張本部と共催してみても得られたものを今後他の本部を回るときの参考にするとのこと。ますます盛んな「カフェ」になることが望まれます。

## その他の活動報告

### 第1回 組織強化委員会

◆7月14日(日)10～12時

◆名古屋市市政資料館 第3集会室

会員の減少を止めるため、ポスターやチラシが検討され、代議員の会員勧誘を支援する方法が議論されました。今後も引き続き検討するとのこと。



### 第1回 名古屋本部会議

◆7月21日(日)10～12時

◆ウイル愛知 第3会議室

冒頭に安田会長の挨拶と、事務局から障害者就労支援の説明、その後、議事として臓器移植普及推進街頭キャンペーンの予定確認、愛腎協定期大会のバス手配、会員拡大のためのポスターなどの検討、他が議論されました。



### 第1回 尾張本部会議

◆7月21日(日)10～12時

◆江南市布袋ふれあい会館 第3会議室

病院訪問の計画、臓器移植普及推進街頭キャンペーンの手配、施設患者会復活が進行中の2件の報告、他を議論し、最後に名古屋本部会議から急ぎ来場した安田会長の挨拶で会議を終え、引き続き午後からは青年部カフェが開かれました。



## 活動予定

◎8月11日(日)第1回臨時理事会 (13時～/名古屋市市政資料館第3集会室)

★8月13日(火)～16日(金)事務局夏季休業